

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	東消防署救急救助活動事業			会計	款	項目	大	小
				01	09	01	01	12
政策	02	2節	生活の豊かさを実感できる流山（生活環境の整備）	主管課	東消防署			
施策	2-3	自然災害・都市災害への備えと予防		主管課長	鈴木 孝男			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住者、在勤者等	意図	災害、事故、疾病等による傷病者を、適切な医療機関に迅速に搬送すること。
事業内容	迅速な出勤や円滑な救急救助活動を行うための救急救助訓練。市民に対する応急手当普及活動を行い、救命率の向上を図る。			
事業開始から現在までの状況変化	平成21年度から東消防署となり、管轄地域の防火対象物の増加、高齢者人口の増加により救急出場増加が予測される。また、管轄地域には、国道6号線があり、年々交通量が増加していることから、救助活動を要する交通事故に対応するために、平成23年度に兼任救助隊を発足し、救助事故に対応している。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	普通救命講習修了者	351	307	302	人	↑↑↑	
②	救急件数	1,530	1,509	1,619	件	↓↓↓		
③	救助件数	19	18	19	件	↓↓↓		
④	バイスタンダーCPR件数	23	22	24	件	↑↑↑		
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 高齢者人口の増加及び生活環境の変化により、救急出場件数が年々増加している。 普通救命講習会等を定期的に開催している。 署員は、多種多様化する救急・救助事案に対応するため、訓練、講習会等を定期的に実施している。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		49,599,281	48,550,000	41,207,000				
事業費(b)(円)		1,544,281	1,566,000	1,655,000				
うち一般財源		1,544,281	1,566,000	1,655,000				
職員給与と費(c)(円)		48,055,000	46,984,000	39,552,000				
人役・職員(人)		7.00	7.00	6.00				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	C 対象が広すぎる
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	自治会及び事業所において、救急訓練（AED取扱い訓練）を行い、心肺蘇生法になじんでもらえるようにした。	③取組における課題(Check)	各種救急訓練受講者は、高齢者の方々は多くおられるが、若い方々の参加は少ないため、この対応策を考察しなければならない。
②H30に実施した取組(Do)	上級救命講習を実施し、よりバイスタンダー増加を図り、救命率の向上を目指した。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	若い世代の救急訓練参加者増加のため、魅力ある救急訓練内容にしている。